# アフリカにおける労働者の技能評価と職業技術教育訓練（TVET）
## —評価枠組み開発にむけて—

座長：高橋基樹（京都大学・神戸大学）
コメンテーター：中野恭子（国際協力機構）
発表：山田肖子、谷口京子、島津侑希（名古屋大学）
Christian Otchia（関西学院大学）

# Skills Assessment of Workers and Technical and Vocational Education and Training (TVET): Toward Development of Skills Assessment Module

Chair: Motoki Takahashi (Kobe University / Kyoto University)
Commentator: Kyoko Nakano (Japan International Cooperation Agency)
Presenter: Shoko Yamada, Kyoko Taniguchi, Yuki Shimazu (Nagoya University)
Christian Otchia (Kwansei Gakuin University)

アフリカなどの開発途上国では、資源価格の上昇などにより GDP が成長しても、国内に技術力の基盤がないため、低付加価値の輸出に止まり、資源依存の脆弱な経済から脱出できないケースが少なくない。同時に、技術基盤のなさは、雇用のすそ野が広がらないことも意味し、インフォーマル・セクターでの不安定な雇用に依存する人々が多い一方で、ILO などの調査研究でも度々指摘されてきたように、安定した生活をもたらすディーセント・ワークをより多くの人々が得られるために、技術力は極めて重要であることが分かる。

こうした認識から、近年は、多くの途上国政府が、産業人材育成のための制度改革や TVET 強化を進めているが、大幅な予算増や制度変更にも関わらず、産業界で需要されている技能を持った労働が輩出できていない、訓練された分野で雇用される卒業生の割合が低い、といった批判は枚挙にいとまがない状況である。そこで、本セッションでは、発表者のグループが行っている研究プロジェクトに基づき、労働市場において、技能労働者の訓練側と雇用側で、技能に対する認識がどのように異なるのか、また、実際に労働者が出来る作業は期待にマッチしているのかを検証する。また、そうした検証を可能にする技能評価のモジュールを開発するために、服飾産業に焦点を当て、エチオピア及び日本の S 県の専門学校で行っている試行の結果を共有する。

まず、山田論文 では、本研究プロジェクトが目指している技能評価とカリキュラム分析につき、全体像を概観する。また、プロジェクトの意義、目的をアフリカの産業開発、人材需要、及び SDGs におけるスキルディベロプメントの議論と関連づけて議論する。

島津論文 は、エチオピア及び南アフリカ政府が公表している職業資格認定のための基準と、そうした技能を持った人材を養成するために実施されている TVET 教育のカリキュラムを分析する。服飾産業の同レベルの技能者に対する基準が 2 か国で異なる点を、両国の産業構造や政策環境に照らして分析する。

谷口論文 は、質問票、筆記試験及び技能試験によって構成される技能評価モジュールの汎用性を高めるために行っている試行結果を提示する。また、項目反応理論などのテスト解析手法を用いて行っているモジュールの難易度、識別力検定から得られた課題も議論する。

Otchia and Yamada論文は、エチオピアで、TVET 校の教師と生徒に対して行った質問票調査の結果に基づき、異なるタイプの就業(起業または企業への就職)に対して、必要だと思う技能、難しいと思う技能についての認識を比較し、教師と生徒の認識の相違を生み出している要因を特定することを試みている。